

# 大学・高専機能強化支援事業の 概況と課題

安浦 寛人

独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構  
大学・高専機能強化支援事業選定委員会委員長  
(NII 副所長)

# 事業の概要

## 支援1：学部再編等による特定成長分野 (デジタル・グリーン等)への転換

- 支援内容:学部再編等に必要な経費(検討・準備段階から完成年度まで) 支援対象:私立・公立の大学
- 250件程度

## 支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化

- 支援内容:情報科学系学部・研究科を有する大学の体制強化に必要な経費 高等専門学校における情報系学科・コースの新設・拡充に必要な経費
- 支援対象:国公立の大学(大学院を含む)・高専
- 60件程度 (ハイレベル枠で5件程度)

## 【事業スキーム】

文部科学省



↓ 基金造成

(独)大学改革支援・学位授与機構  
(NIAD-QE)



↓ 助成金交付



大学・高専

大学・高専成長分野転換支援基金  
令和4年度第2時補正予算 300,242百万円

# どのような支援が受けられるか？

## 支援 1 (R5-R14年度募集予定)

- 支援対象：私立・公立の大学
- 助成期間：原則8年以内
  - a. フェーズ 1：計画から設置認可申請(または届出)まで(3年以内、Max3000万円)
  - b. フェーズ 2：申請(届出)から開設まで(1年程度、Max20億円)
  - c. フェーズ 3：開設から学部完成まで(4年、Max4000万円)

## 支援 2 (R5-R7年度募集)

- 支援対象：国立・公立・私立の大学、高等専門学校
- 助成期間：最長10年間
  - 大学一般枠10億円(大学院の強化、学部の強化も入れて良い)
  - 大学ハイレベル枠20億円(大学院の強化、学部の強化も入れて良い)
  - 大学特例枠(大学院の新設4億円)
  - 高専(10億円)

# R5年度の選定校

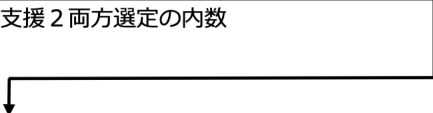
選定数

(機関)

①大学・高専の種類	国立大学	公立大学	私立大学	高専	計
	37	14	55	5	111

②選定の支援区分	支援1	支援2	計
	67 ( 7 )	51 ( 7 )	118

\* ( )は支援1及び支援2両方選定の内数



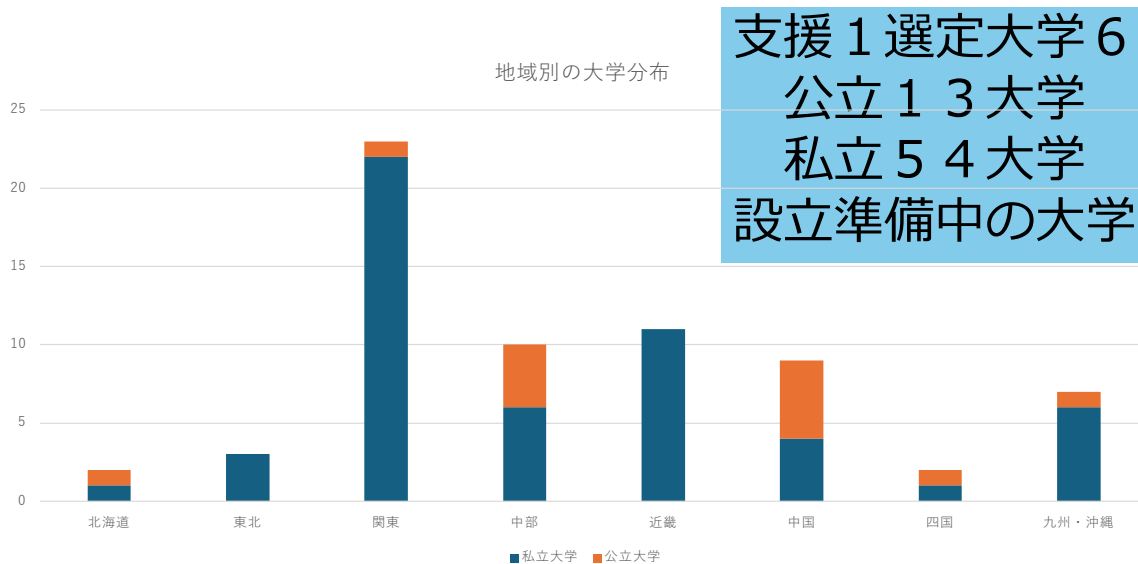
③支援2の選定区分	一般枠	特例枠	ハイレベル	高専
	36 ( 4 )	3 ( 3 )	7	5

\*②選定の支援区分のうち、「支援2」の内訳

\* ( )は支援1及び支援2両方選定の内数

詳細は、<https://www.niad.ac.jp/josei/report/r5selection/>

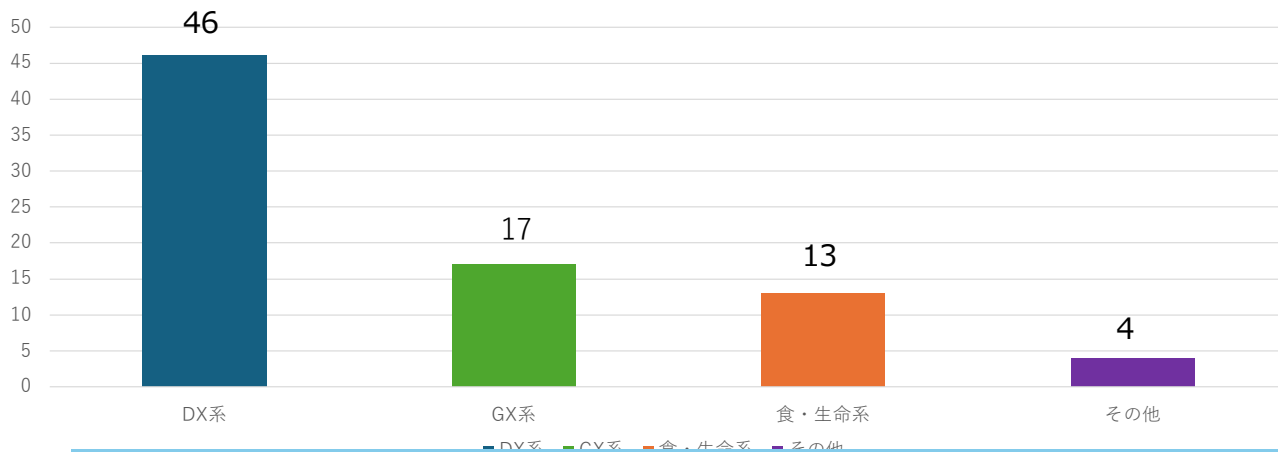
# 支援1で選定された大学の地域は？



支援1 選定大学 67 大学  
公立 13 大学  
私立 54 大学  
設立準備中の大学 1 校

# 支援 1 で選定された分野は？

採択提案数（複数の系に跨る提案は重複してカウント。分類は安浦の独断）



**DX系**：情報科学、データ科学、AI、マネジメント、経営学など

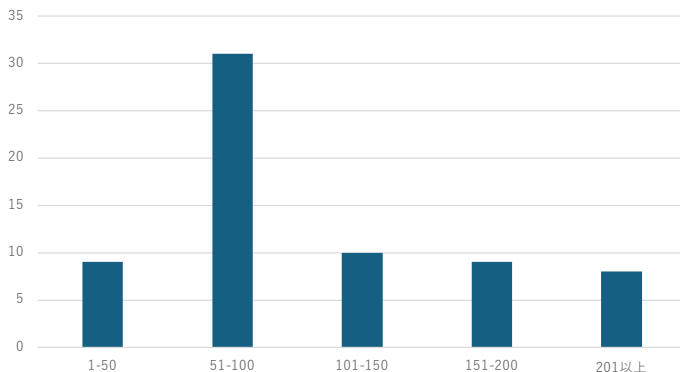
**GX系**：環境、エネルギー、建築など

**食・生命系**：食品、健康、生命科学、農学、スポーツなど

**その他**：文学、音楽、心理などとDX

# 新設や改組の規模や種類は？

整備後の毎年の入学者数

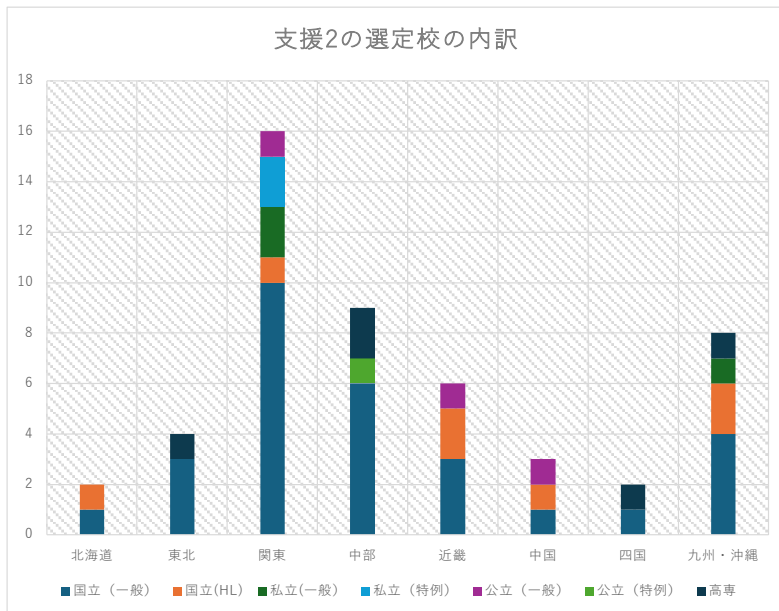


大きいものは入学定員500人を超えるものが3件ある。

A「学部の新設」	31件
B「学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）」	16件
C「既存学部における学科の新設」	8件
D「既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）」（重複10件）	17件
E「既存学部の収容定員の増加」	4件
F「既存学科の収容定員の増加」	1件

- \* 女性の入学を奨励
- \* 文系学科との融合
- \* 文系、芸術系、医学系、福祉系大学からの申請

# 支援2で選定された大学・高専は？



全体で51校  
 国立 37校  
 私立 5校 うち4校は支援1も選定  
           特例枠 2校  
 公立 4校 うち3校は支援1も選定  
           特例枠 1校

高専 5校  
 ハイレベル枠の選定校  
 北海道大学  
 筑波大学  
 滋賀大学  
 神戸大学  
 広島大学  
 九州大学  
 熊本大学



# R4年度機能強化会議

- 令和6年2月7日（水）13：30～17：00
- 学術総合センター 一橋講堂（対面開催）
- 参加者：78 大学179 名  
支援1 選定校67 大学163 名  
支援2 選定校10 大学15 名
- 内容：文科省からの講演（梅原専門教育課長、田中初等中等教育局参事官）、産業界の事業選定委員の講演2件、事例紹介（京都橘大学、横浜市立大学、芝浦工業大学）
- ラウンドテーブル（3会場に分かれての質疑応答）

# 選定校の抱える課題は？

## アンケートの実施（機能強化会議参加校）

1. 教員の確保
  - **教員確保**が難しい。（特に情報分野、地方大学、実務家教員など）
2. 学生の確保
  - 高校生及び高校の進路指導教員の**理解不足**
  - **女子学生**の確保が困難
  - 志望学生の**定員割れや志願倍率の低下**への危惧（特にGX分野）
3. 設置認可申請
  - 新しいチャレンジが**設置審**に認められるかが心配
  - **実務家教員**の規程の柔軟化（特に地方の大学）
4. 助成金の執行
  - **建設費**の高騰への対応
5. 本事業制度の問題点
  - 理系学部の設置には10億円では全く足りない（私大）

# 今後の申請にあたって

- R6年度申請は、現在審査中。7月には通知予定。
- 支援2の募集はR7年度で終了予定。
- 支援1の募集はR14まで（基金が尽きるまで）続く予定。
- 日本の大学教育（特に学部教育）をDX/GX時代に向けて大きく変化させるチャンスと捉え、新しい提案をお願いしたい。
- 設置審とは独立なので、その点は注意が必要。
- **選定校の計画の概要は下記から参照してください。**

<https://www.niad.ac.jp/josei/report/r5selection/>  
大学改革支援・学位授与機構(NIAD)のHPの助成事業

# まとめ

- 本機能強化支援事業は、新しい産業・社会構造に適応するための**高等教育の改革**のチャンス。
- **あらゆる産業分野**（工学、医療、農業、スポーツ、芸術、法律、経済など）がDXやGXと連携することで先端分野となりうる。**各大学の知恵と挑戦に期待**。
- 日本人のほとんどが楽譜が読めるように、**情報科学やAIの基本的な知識を持って仕事をする時代へ**。